（別紙4）　　平成　31　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1090300375		
法人名	医療法人　山育会		
事業所名	グループホーム　サンシャインあいおい		
所在地	群馬県桐生市相生町4丁目33-4		
自己評価作成日	H31.1.30	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町１３－１２
訪問調査日	令和1年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

*毎日散歩をし、季節の移り変わりを感じ、転倒予防と、下肢筋力を低下させないようにしている。
*利用者様個々の持っている能力、出来る事（掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、食器拭き等）を行って頂き、役割を持ち生きがいになるようなケアを実践している。
*他施設のイベントに出掛け、外出する機会を多くし、楽しい毎日が送れるようなケアを実践している。他施設との交流には疑似通貨を使っての行事を行ったり、春は10施設で大運動会、夏は家族・地域の人達にも呼びかけて花火大会、秋はお月見会といった合同イベントを行っている。
*医療面において、往診や受診と、かかりつけ医とのこまめな情報交換を行い、健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、地域とのつきあいを大切にした取組みを積極的に行っている。隣近所とは、日常生活の中で、窓越しで利用者と挨拶を交わしたり、散歩の途中ぶどう園に寄って立ち話をしたり、そうしたなか、火災等の災害時には、いつでも協力いただける関係づくりができている。また、事業所の行事や認知症カフェなどを通じ、家族、地域の人々と利用者が交流し、関わり合いながら生活できるよう支援している。その他、事業所は家族との関係を大切に考え、面会時、行事参加などの際には利用者の状況を丁寧に説明し、家族の意向などを聞くと共に、家族の人柄を把握するため、行事の際には、家族の特技（八木節など）を引き出し、関係づくりのきっかけにしたりしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を基本とし、利用者様、地域、ご家族との関わりを大切にして、実践に繋げている。玄関や事務所に掲示してあるので、目に付き、振り返り意識する事が出来ている。	理念がケアの全てに繋がると考え、毎月のミーティングで理念に触れながら取り組み状況を職員間で確認し合っている。理念に掲げている笑顔を重視し、日々明るく元気に笑顔で接することを大切にすると共に、利用者のそれぞれの特性を観察して、個別ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時に、近所の方々と挨拶や、世間話をする事で、季節の花や野菜を頂いたりして、馴染みの関係を築いている。施設に併用して、地域交流室で認知症カフェを毎月実施している。	地域の方と顔なじみになっており、散歩の途中でぶどう園に立ち寄って世間話をしたり、おやつにぶどうを購入したりしている。地域の運動会やお祭りに参加し、ホームで開催するバーベキューパーティーに住民を招待している。事業所で開催する認知症カフェに参加した方の認知症登録を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学で来所された時等、施設の様子を見て頂き、不明な点がある場合、専門的な知識がある職員が対応出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、隣の施設と合同で会議を行い、行事、外部評価、防火訓練等の議題を設けて相談し合っている。 ヒヤリハット・事故報告を行い、ご意見を伺ったり、会議の議事録をご家族様に送り、関心を持って頂き、サービス向上に繋げている。	偶数月に開催し、事業所の取り組み状況やヒヤリはっと事例を報告して意見を聴取している。また、地域の情報を得て、事業所行事に取り入れている。家族には、順番制で参加を依頼している。今後、消防訓練などと関連させて開催することも考えている。	より多くの家族の出席、出席できない家族からの意見聴取など、運営推進会議に対する家族のかかわり方の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請書類の代行の際等、施設の現状を報告し、問題点を相談し、必要な助言、指導等を得て、市との連携を取っている。	日頃事業所の現状を報告し、適宜助言を頂くと共に、市の認知症登録事業に協力し、職員を招いてホームで開催するなどしている。地域包括支援センターとも連携し、介護教室のイベント案内協力などしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制する拘束、言葉での拘束をしないケアを実施している。 今まで拘束は行っていない。 年2回勉強会を行い2ヶ月に一回の運営推進会議後に身体拘束委員会を開催している。	法人で開催する検討委員会に出席し、結果を職員に周知すると共に、運営推進会議で状況を報告している。職員は拘束をしない介護の意義を理解しており、玄関は鍵を掛けず、利用者が自由に出入りし、職員が連携して見守り、屋外に出たいときは職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入浴時に利用者様の身体観察を行い、不審なあざ、傷等の観察を行い、見過ごさないよう努めている。勉強会に参加し、職員の自覚を促している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を学び、必要とする利用者様がいる場合には、説明会や利用検討の段取りを組む等、支援していけるようにしているが、今まで利用の人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や運営規定の説明等を行い、疑問点等を確認し、理解して頂いてから、契約を行う。救急搬送時の対応についてや、蘇生の対応については、定期的に書面にて家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険等、制度の変更がある時は、お便りや、お知らせを玄関に掲示して家族面会時に説明している。	家族との関係づくりを重視し、ケアについて説明し、話し合う機会を多く持つようにすろと共に、家族の行事参加など家族と触れ合う場面を通じ、家族の人柄の把握・理解にも努めている。利用者の好きな食べ物を差し入れたい希望が多いため、職員が預かって管理し、適切に食べられるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員共有の申し送りノートを活用して、意見、提案等を行っている。月1回の職員全体のミーティングの中でも、問題になる事等の提案をする機会がある。 職員の組合があり、職員から意見、希望を聞き、法人代表と話し合う会議がある。	毎月のミーティングや日頃のなかで、意見や提案などが行われている。希望休や勤務の交代等は、職員同士で相談し、必要に応じ管理者が調整している。法人には組合組織があり、各事業所から1名づつ参加し、案件によってはそこで話し合いが持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内でのQC活動があり、現場での実践を発表する機会を設け、職員の意欲向上に繋げている。 年に1回チャレンジシートがあり、個々の目標や目標達成度を確認して意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会等の案内は事務所に掲示してある。各施設に研修職員を置き、職員個々が参加出来る勉強会が毎月ある。 同法人内の他施設での意欲向上にも繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の研修、勉強会や行事等で各部署の職員と交流する機会を設け、質の向上を目指している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っている事を軽減出来るコミュニケーションを取り、信頼関係を深めるようにしている。言葉で上手く表現出来ない利用者様に対しては、行動と言動の意味を探る事で、信頼関係を深められるように努めている。本人様がどのような生活を希望しているか、把握するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族に見学して頂き、希望や心配事を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の出来る事、出来ない事を、ご家族、ご本人から伺い、必要なケアを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人を人生の先輩として敬意を持って接し、個人を尊重し、今持っている出来る能力を活用し、困っている所を援助している。食事の準備、片付けや掃除等、教えて頂きながら一緒に行ない、援助している。感謝の言葉は、必ず伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、利用者様の様子を伝えたり、意見交換や、要望等を伺い、共にご本人を支えられるよう支援している。ご家族と相談しやすい関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用出来るよう支援している。 また、馴染みのご友人の面会の受け入れも、家族了解のもと受け入れている。	長年馴染んできた桐生八木節まつりや菊祭りなどの行事、梅田などへのドライブなどを、事業所の年間行事に組み入れている。その他、個別に、入居前に勤めていた店に一緒に出向いたり、昔話が楽しめる美容院への送迎を行ったりしている。面会者への対応にも気を配り、再来を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、毎日の生活の中で、一緒に楽しむ機会を設けている。利用者様同士が関わり合える関係作りに努めている。集団が苦手は利用者様に対しては、個別に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様には、利用者様と職員でお見舞いに行っている。 契約終了された方のご家族から紹介された入所相談があった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様、ご家族とのコミュニケーションを取り、利用者様の思いを汲み取れるように、希望や意思の把握に努めている。マンツーマンの散歩等を行い、コミュニケーションを取り、ご本人の意向を聞くようにして、職員で話し合ってケアをしている。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴等を把握・共有している。その時その時の気持ちに寄り添うよう努め、気分にそぐわない時にどんな行動をするのか、どんな表情になるのかを観察している。マンツーマンの散歩等を通じ、利用者とのコミュニケーションが取れやすい状況をつくるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様ご本人、ご家族にお話を聞き、これまでの暮らしを把握する。 生活歴や馴染みの暮らし方をご本人との話しの中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ご本人、ご家族にお話を聞いたり、ケア記録、個人記録、スタッフ間の申し送りの中から、現状の把握に努めている。 その時の利用者様の状況で、臨機応変に対応出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、現状に即したケアプランの作成をしている。 スタッフ間でケアプランの共有を行い、日々の生活やモニタリングに活かせるよう、ケアプランを個人記録と一緒に保管してある。	職員は介護計画に即した支援を行い、日々の記録もそれを意識して行っている。毎月のモニタリングは、日々の記録、申し送りなどを参考にし、担当制による担当職員から意見を聞くなどしてケアマネージャーが行い、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した支援を行い、ケア表、個人記録に毎日記録を行い、申し送りや申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。 記録や実践状況をもとにモニタリング、見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化によっては、訪問看護、医療機関への受診、その時々のニーズに合ったサービスを選択して頂いている。 御主人が入院をした利用者様と一緒に、ご家族了解のもとお見舞いに行ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルのボランティアで踊りや演奏を行って頂いている。社会資源を活かし、楽しめる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望のかかりつけ医の受入往診や、必要に応じ、職員が受診介助を行っている。 必要に応じて電話やFAXで状態報告を行っている。	従来のかかりつけ医を利用している方、その他は協力医がかかりつけ医となっており、それぞれ2週間に1回往診がある。他科の受診は、かかりつけ医の指示の下で家族が付き添い、職員が送迎している。看護師が週1回訪問して利用者の状態を確認し、それぞれの医師に適宜報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様との関わりの中での情報、気付きを訪問看護師、その他専門職と共に報告、連絡、相談して、適切な受診が受けられるよう支援している。毎週火曜日に訪問看護の来所があり、利用者様全員のバイタル測定と様子を診てもらう。夜間急変があった場合にも協力してもらう体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に地域連携室があり、病院とご家族との連絡が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護及び、かかりつけ医、他医療機関との連携を取り、出来るだけご家族の希望に沿った支援が出来るようにしている。	終末期の介護指針を入居時に説明して意向を聴取し、通常は半年毎に意向の再確認を行っている。状態変化に伴い、家族、医師と相談し、家族の意向に沿った支援ができるようにしている。今後、看取り支援に対する職員の教育にも注いでいく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習の勉強会に職員全員が参加し、初期対応の訓練を定期的に実施している。 緊急対応マニュアルがある。 AEDが設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。 町会長をはじめ地域の方との協力体制を築いている。	年2回の訓練、うち1回は消防署立会いで行っている。地域が水害危険区域となっている為、高台にある事業所は地域住民の避難所として提供している。火災時には、地域の協力が得られる関係づくりが整い、平素から住民が認知症カフェや避難訓練等に参加している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報(個人ファイル)は人目のつかない所に保管してある。職員は、個人情報について、秘密保持を厳守している。 利用者様の人格、尊厳を尊重したケアを実施している。利用者様は苗字で呼ぶ対応をしている。	利用者に対して、指示語を使わないよう気をつけている。管理者の指導の下で、語尾に「～ね」を付けた優しい声かけに努めている。生活歴に合った個別の対応に心がけ、人格を傷付けることが無いように利用者の立場に立って考え、気持ちよく過ごして頂けるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望、希望を傾聴し、選択肢を広げ、自己決定が出来るよう支援している。 ご本人からの希望が聞けない時は、ご家族からの情報も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、利用者様の今まで通りの生活を大切にしている。利用者様の希望する事を、ご本人のペースで行っている。 その日の利用者様の体調や気分に合わせて散歩、買い物に参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のこだわりを尊重し、本人が出来る範囲で今までの生活の中で大切にしてきた服装(その人らしさ)や季節に合った服装が出来るように支援している。馴染みの美容室の受け入れや、訪問理美容の受け入れも行っている。 身だしなみやお化粧等を行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と買い物、調理、食事の盛り付け、配膳、片付けを一緒に行なったり、週1回の手作り昼食を利用者様と一緒に作って、静かな音楽を掛け、利用者様と職員で会話を楽しみながら食事をしている。	法人で調理し、ご飯のみ事業所で炊き、事業所で配膳している。法人で給食委員会を組織し、事業所の意見・要望を献立に反映させている。木曜日の昼食と毎日のおやつは事業所での手作りとし、利用者と相談して献立を決めて一緒に買い物に出掛けている。その他、毎年「お月見会」には屋外で炭火でさんまを焼き、けんちん汁を作って提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の体調、希望に合わせ、食事の提供をしている。好きなだけお茶が飲めるよう、常にポットはテーブルの所に置いてある。水分摂取が少ない利用者様には、好きな物を提供している。 法人内の管理栄養士が半年に1回栄養スクリーニングを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の指導を、関連の歯科の歯科衛生士より受け、問題がある時は、相談している。 毎食後、口腔ケアが出来るようセッティングか、声掛け、仕上げ磨きの介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア表に排泄の有無を記入し、スタッフは個々の排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。 日中は、利用者様全員が、トイレでの排泄が出来るように支援している。	入居時におむつ使用の方に対して、排尿のパターンや尿意・失禁のサインを観察し、適時誘導を行うことで、殆どの方が昼間はおむつを使用せずに過ごせている。夜間は睡眠を優先しており、熟睡している時には声をかけず、その時の体調に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やレクで身体を動かしたり、数日排便が無い利用者様には、腹部マッサージをしたり、寒天等を使用したおやつや繊維質の多い食べ物を提供している。出来るだけ自然排便が出来るよう、個々に合わせて予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせた入浴を支援している。 無理な声掛けは行っていない。マンツーマンで、一人一人ゆったりと入浴出来るよう対応している。	週2～3回の入浴を支援している。入浴時間を限定せず個浴で対応し、専用椅子を使用することで全員が浴槽に浸かっている。冗談を言い合ったり、笑い合ったりしながら楽しく入浴できるように配慮している。拒否のある方にはタイミングを見ながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人一人の生活パターンに合わせ、個別に休息している。不安の訴えがある時は、温かい飲み物を提供したりして、安心して眠れるように支援している。 馴染みの寝具を利用している利用者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の用法をお薬手帳や薬の説明を参考にし、個々の内服時間に合わせケアしている。 状況により、追加された内服薬に関しては、内服後の経過報告を行い、症状に合った服薬支援に努めている。主治医や薬剤師の指示のもと、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に、気分転換を兼ねて近所のスーパーに嗜好品等を買いに行ったり、個々の楽しみ事の支援をしている。花や植木が好きな利用者様と、花を買いに行き、プランターに植えたり、ドライブに行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を実施している。個別の買い物支援を行っている。 季節の花見を心掛け、毎月外出している。 ご家族との外出を楽しみにしている利用者様もいる。	毎日、何時でも、何回でも個別の散歩に対応している。併設施設と合同で夏祭りやお月見会を開催し、全員で地域の運動会や花火大会に出掛けている。また、法人の事業所が開催する認知症カフェに、毎週参加している。家族と出掛ける際には、送迎等の協力を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、個人でお金を持っている利用者様は、一緒に近くの店まで買い物に行き、ご本人の希望される物を購入する個別ケアを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で連絡したい利用者様は、個人の携帯を利用しているが、使用が分からない時は支援している。 入所時にご家族に確認をして、ご本人が希望される場合は電話を掛けたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室と廊下の温度差を無くしたり、居心地良く過ごせるように対応している。玄関は、季節の飾り付け等を行い、利用者様の作品を展示したりしている。	個人の居場所が決まっていることで安心でき、穏やかに過ごせるようにと、職員間で相談しながら席の配置を検討している。テーブルの形はコミュニケーションが取り易いように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった席があるが、気の合った利用者様同士が座る事もある。個々に自由に過ごしている。 玄関には椅子を置き、靴の履き替えだけでなく、ひなたぼっこを行う利用者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具の持ち込みを自由にし、ご本人が居心地の良い空間で過ごせる様工夫している。 自宅で使用していた家具の持ち込みもある。 個々に過ごせる工夫をしている。	各居室にベッド、エアコン、カーテン、寝具が設備されている。タンスや洋服掛け、テレビや冷蔵庫などがそれぞれ適宜持ち込まれ、家族写真やホームで作った作品などが飾られている。その人が子供の頃に制作したという思い出深い作品も持参され、誇らしく、また本人の励みにもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースのホールを中心に、キッチンから食事を準備する音や匂いがしたり、家庭的な雰囲気を感じられる工夫をしている。 利用者様居室は、個々に解るような目印のある環境にしてある。		